

## 7. 伊豆半島における臨時観測

地震研究所 地震予知観測センター

(昭和 52 年 7 月 10 日受理)

伊豆半島沖地震 (昭和 49 年 5 月 9 日,  $M=6.9$ ) の後, 昭和 50 年のはじめころから同半島中部ではあらたに土地隆起や群発地震など一連の地殻活動が始まり, 関係者の注目するところとなった. このような現象が地球科学的にも, また地震防災的見地からも極めて重要な研究対象であることは, 伊豆半島の立地条件にかんがみて明らかである.

上記の事態に対応して大学および省庁の各関係研究機関ではこの地域の観測調査に努め

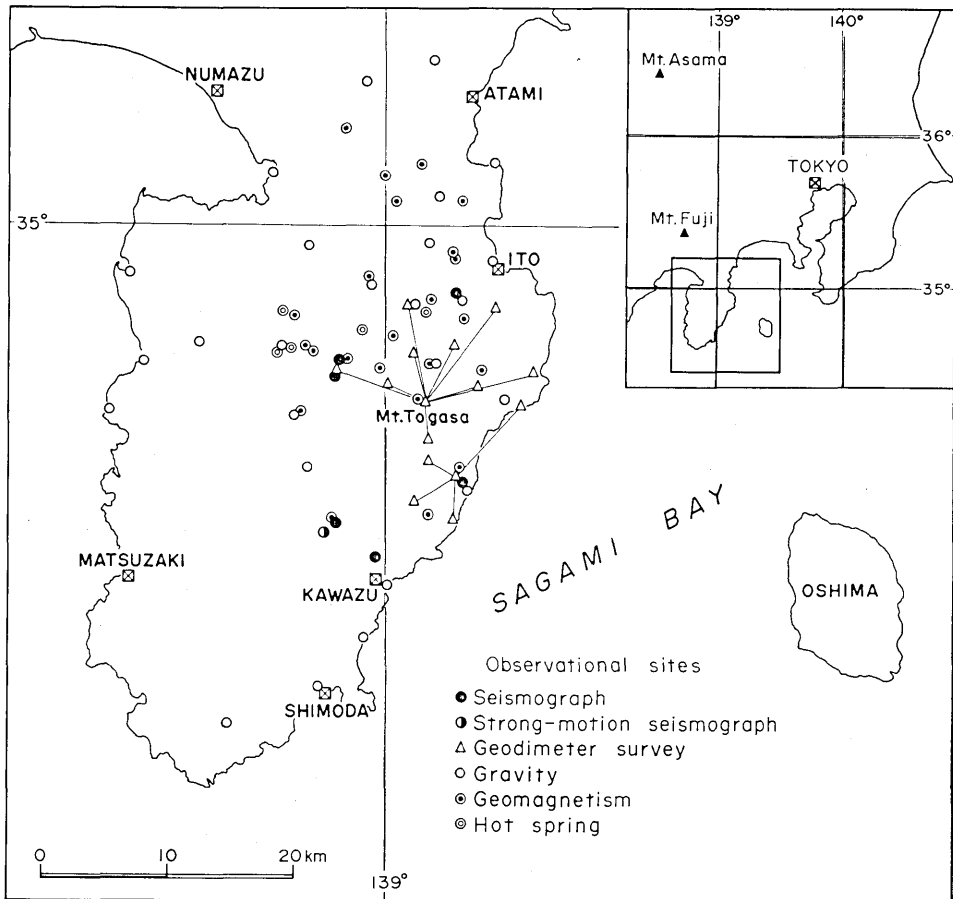


Fig. 1. Geographical distribution of observational sites (Earthquake Research Institute).

ることになった。地震研究所もその一翼を担うべく、一昨年いらい、地震観測をはじめ重力測量・光波測量・地磁気観測・温泉地下水調査・強震観測・地質調査など総合的手段を尽してこの現象の実態解明に取り組んできた。観測調査資料のうち地震予知に関連の深いものはその都度、地震予知連絡会に報告してきているが、現地作業が本格化していらい2年余を経た現在、これまでの成果を本誌にとりまとめ刊行することになった。もとより観測調査は目下継続中であり、その進展に応じて今後さらに報告が寄せられることになろう。

これらの観測調査には本所の研究部門および移動観測班・観測所など諸施設が多数参加した。事項ごとの詳細は各報告に見られる通りであるが、報告集のはじめに当り、現地観測点（本所関係）の配置一覧図を添えて各種作業の相互関係を示すこととする。

なお、以上諸項目の観測調査に当っては、「関東東海地域地殻変動特別観測」費をはじめ、各種の科学研究費・地震災害調査費および一般校費（以上文部省関係）のほか、一部は各務記念財団研究基金の御援助を受けた。ここに記して謝意を表する次第である。

---

## 7. *Summary of Field Observational Work on the Recent Crustal Activity in Izu Peninsula.*

By EARTHQUAKE PREDICTION OBSERVATION CENTER,  
Earthquake Research Institute.

Since early 1975, the Earthquake Research Institute, in cooperation with other universities and governmental institutions, has conducted a series of field observations and surveys in Izu Peninsula. The purpose of the work is to monitor, by various means, the recent crustal activity as indicated by local earthquake swarms and land uplift over the central part of the Peninsula, with special reference to earthquake prediction research. The following articles report current data and information obtained by various techniques, including seismological observation, gravity surveys, geodimeter surveys, geomagnetic observation and surveys, geochemical studies of hot spring water, and geological studies over the area.

As a prefatorial report, this article compiles the geographical distribution of various observational sites on an index map as shown in Fig. 1.